

ボッチャ甲子園，めざせ東京パラリンピック 特別支援学校の生徒ら競う

全国の特別支援学校の生徒が競う「ボッチャ甲子園」が7月21日、都内で開かれた。2020年の東京パラリンピックに向けて裾野を広げようと一般社団法人日本ボッチャ協会が開催するもので、今回で2回目。開会あいさつで奥田邦晴・代表理事は、全国から36校が集まってくれたことに感謝を述べたうえで「まずは勝ってほしい。そして敵も味方もなく、良いプレーには大きな拍手と声援をお願いしたい」と呼び掛けた。

同日はリオ大会日本代表メンバーの廣瀬隆喜選手や、義家弘介・文部科学副大臣も出席。生徒との交流試合も行った。

ボッチャは、脳性麻痺や身体障害がある人のために考案されたスポーツ。ボールを交互に6球ずつ投げ、いかに目標球に近付けられるかを競う。大会では、都立村山特別支援学校（武蔵村山市）が優勝した。

（福祉新聞・第2822号 2017年8月7日）